

ここの女性

東日本大震災から学ぶ

女性の視点から防災を考える

東日本大震災により、災害時の女性、子どもや高齢者などに関する問題点が明らかになってきました。私たちは、このことをしっかりと受けとめ、日頃から将来にそなえて準備していかなければなりません。みなさんと一緒に考えていきましょう。

住民による自主防災訓練の様子
(スターコート豊洲にて7月22日◎)



震災による犠牲者は女性・高齢者が多い

内閣府作成の資料によると東日本大震災による犠牲者数(岩手・宮城・福島)は女性8363人、男性7360人と女性のほうが1000人程多くなっています(年齢不詳も含む)。この差はほとんどが70歳以上の犠牲者数の差によるものです(図1)。これは津波から逃れるのが困難な高齢者が多かったこと、特に女性の高齢者一人世帯が多かったのが原因の一つと分析されています。

避難所生活における不便や犯罪被害

避難所生活は特に女性にとって、身の休まらないものになっていきます。内閣府の調査によると、生活用品がない、下着がない、あつても合うつサイズがない、おむつ・粉ミルクや哺乳瓶が足りない、女性用のもの干し場がないので下着が干せない、授乳や着替える場所が配慮されていないなど、さまざまな不便がありま

江東区総務部
男女共同参画推進センター
(パルシティ江東内)

〒135-0011 江東区扇橋 3-22-2

☎ 03-5683-0341

http://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/jinken/7803/index.html

女性の参画を進めよう

区では、江東区防災会議に女性委員をすでに登用しており、女性の視点に立った防災対策について意見を聴取し、江東区地域防災計画への反映に努めています。

また、「江東区避難所管理運営マニュアル」では、複数の女性を避難所運営に参画させることや、運営において配慮すべき事項を記載しています。

自主防災組織

図1 東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数(岩手県・宮城県・福島県)



(備考) 1. 警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について[23.3.11~24.3.11]」より作成
2. 性別不詳、年齢不詳は除く
出典:平成24年版男女共同参画白書

日頃から準備しよう

日頃から防災用品や日用品を自宅のみならず、職場にもストックしておくことも大切です。また、自宅の耐震化や家具の転倒防止策等に取り組み「避難所生活をしないで済む」ことを第一に考えましょう。

また、日頃持ち歩いている

日頃から準備しよう

バッグなどには、飲料水、簡単な食料になるもの、携帯用のLEDライト、ポリ袋やレジ袋を入れておきましょう。大きいポリ袋は、簡易給水タンクに、また首や手を出す穴を開けて雨具や防寒具になります。レジ袋は脇を切ってタオルをあてて持ち手を結べば、簡易オムツ(図2)にもなります。アレルギーがあるお子さんには対応食を用意しておきましょう。災害時は、電話が繋がらないことがほとんどです。災害用伝言ダイヤルで安否確認を行う方法もありますが、連絡が取れない時のために、家族の緊急時の集合場所と時間を決めておきましょう。

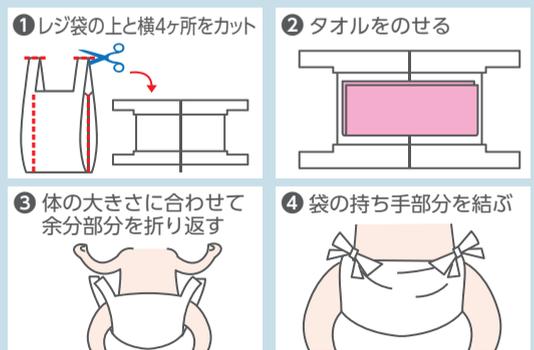
自治会や地域活動などに積極的に参加し、近隣とのネットワークを作っておくことも大切です。

特にひとり暮らしの方は、近所の人とのつながりが大事です。何かあった時、安否確認をしてくれる人がいると心強いですね。

乳幼児がいる家庭、高齢者、障害者など、お互いの立場や状況を理解し合い、災害による弱者を作らないよう地域で心がけていきましょう。

女性の視点から防災を考え、日頃から備えることは、誰にとっても安心・安全に暮らせるまちづくりの一助になっていくのではないのでしょうか。

図2 簡易オムツの作り方



11/12/11/25は「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間

東日本大震災の被災地では、遺憾ながら、女性に対する性暴力犯罪が発生しています。これらの暴力は、重大な人権侵害であり、決して許されるものではありません。

内閣府は、毎年11/12/11/25を「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間として各都府のほか地方公共団体や女性団体と連携・協力し、意識啓発など女性に対する暴力に関する取り組みを一層強化することとしています。

区では、男女共同参画KOTOプラン(第5次行動計画)で、異性に対するあらゆる暴力を根絶することを目標として「女性の悩みとDV相談」という専門相談を実施しています。またDVに関する情報提供・啓発の充実にも努めています。